

街づくりにかかせない下水道業

大阪府庁別館の4階にある下水道室。ここでは約30人の職員が、快適で安心して暮らせる街づくりと地球にやさしい循環型社会の実現をめざして下水道にかかわる仕事をしています。



りかことたいちの職場訪問

こんなところにも組合員④

連載

都市整備部 下水道室 事業課 建設グループ 永本隆行さん

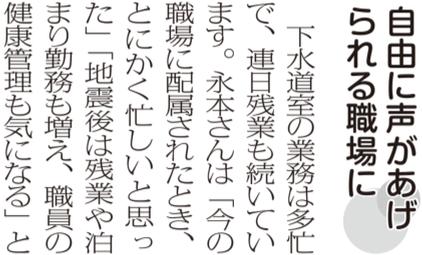


6月18日に発生した大阪北部地震によって下水道管の被害状況の確認など、いま職場は一気に多忙化し、連日の泊まり勤務も増えています。下水道室で働く永本さん取材しました。

清潔な環境づくりに役立つ下水道

永本さんは、下水道を建設・維持管理するための予算資料の作成、出先の調査結果を取りまとめ、他の部署にも返していくという業務を担っています。国や各都局からの依頼や議会対応、報道対応もあり、業務は多岐に渡ります。

水防業務(水防法)により、洪水、雨水出水、津波、高潮等による水災を警戒・防衛し、これらによる被害を軽減し、公共の安全を保持する業務)は、ある程度予測ができるのでまだ対応ができて



自由な声があげられる職場に
下水道室の業務は多忙で、連日残業も続いています。永本さんは「今の職場に配属されたとき、とにかく忙しいと思っただけで、地震後は残業や泊まりの勤務も増え、職員の健康管理も気になると

話します。
下水道室のある府庁別館では、空調が18時になると切れてしまいます。いまの職場の改善点について永本さんは「残業時の空調や泊まり勤務のときの仮眠スペースがほしい」「おかしい」と言える職場にしていきたいと話します。

子どもとの時間が癒しの時間

昨年夏に2児のパパになった永本さんの楽しみは、休みの日に子どもと遊ぶこと。もうすぐ1歳になる娘が笑顔でハイハイしながら近づいてくるのが可愛くてたまらないと笑顔がこぼれます。

【聞き手 越智太一】



6月13日、府労組連なんば大宣伝。「働き方改革」一括法案の強行採決とカジノ関連法案の審議入りを進めるなど、安倍内閣の暴走を止め、憲法改憲NO!の声を上げました。



6月27日、府職労定例働くルール宣伝を場筋本町交差点で「働き方改革」一括法案の強行採決直前に行いました。法案の問題点の訴えには関心を示す方も多く、全国一律最低賃金引き上げの署名も20筆集まりました。

医療の現場から

府民のいのちと健康を守る府立病院に ⑦

寝屋川保健所 長池 敦子



経営・採算優先の公立病院では医療の質は低下する

12年前の大阪府立5病院の独立行政法人化、そして、この間の国や府の医療施策に不安を感じています。

一部の「ボランティア精神」に頼る現状

保健所の業務は、管内の医療機関の質を確保し、府民の健康を脅かす疾患への対策、府民がどんな疾患を持ちながらも安心して生活ができるように、関係機関の支援体制の構築などです。

採算重視ではできないことたくさん

公立病院が十分に機能している都道府県では、求められている行政施策があれば、一度公立病院をやってみて、試行錯誤の結果、住民へのリスクを解消し、支援方法を確立したうえで民間の医療機関に支援方法を示し、施策としての定着をめざしています。その後も不具合や住民へのリスク、困難な事例等が発生すれば、公立病院がバックアップするという体制が確立されています。

しかし、大阪府では12年前に府立5病院が独立行政法人化され、民間の

治療や対策がはっきりわからない疾患への対応や採算の少ない治療、そこからの施策化は、私たち人間が生きていくうえで必要不可欠なことで、その対応は、採算第一の民間病院では難しいから、公立病院が存

より良い医療へ取り戻したい
しかし、落胆ばかりはしておらず、この気持ちを少しでも多くの人に伝え、なんとでも、どんな疾患にも対応し、より良い医療の質を確保し、府民に還元できる公立病院を取り戻すために力を合わせていきたいと思っています。また、現在、府立病院で奮闘されている職員みなさんに敬意を表し、あきらめずに一緒にがんばりましょうという気持ちでいっぱいです。

府職労2018 地方自治研究集会の開催「延期」のお知らせ

- とき 9月1日(土) 10時~16時30分
- ところ エルおおさか 南館5階南ホール
- 参加協力 500円 (軽食・資料代を含む)

組合員は無料

保育ルーム完備 (事前予約制)

軽食・お菓子・ドリンクコーナーもあり